

佳作

## 夢見たピアノばんそう

福島県 須賀川市立第二小学校六年 池島 祐奈

ドキドキドキ胸がしめつけられそうなくらい、きんちようする。「どうしよう。でもやるしかない。やらないといけない」そう、心の中で決心した。

こんな風にきんちようをしたのは、私が卒業式で在校生代表として、歌のピアノばんそうをすることになったからだ。二学期の終わりがらから、楽ふをわたされ、冬休み明けに発表して選ばれたのだ。ピアノのばんそうと最初聞いた時私はすぐに、「やってみたいな。お世話になった先ばいに、恩返しをしたい」と思っていた。でも、実際そんな簡単に出ることはないと感じた。なぜなら、周りには私よりも、ピアノが上手な人がたくさんいたからだ。そして何よりも、私にとってレベルが高く難しい曲であった。私は、本当にこんなに難しいレベルの曲がひけるのかと不安な気持ちに負けそうになっていた。

た。それでも不安を抱えながら、私はいつか体育館で先ばい達に、「中学校へ行ってもわすれないで。そしてありがとうございました」の気持ちをピアノで伝えられることをずっと夢見てきた。そして、その気持ちをわすれずに、毎日、毎日、ピアノの練習にはげみ続けた。その結果、私は夢見てきたピアノのばんそうが出来ることになった。ばんそうが私に決まった時、自分でも信じられないくらいびっくりして、本当にうれしかった。

それから、卒業式で完ぺきにひけるように、ピアノの先生からのアドバイスを受けながら、一日一時間を目標に練習をがんばってきた。しかし、それだけではみんなの歌となかなか合わなかった。ピアノはうまくひけるようになってきたが、みんなの歌と合わせると、どうも合わなく、うまくひけないのだ。私は、本当に卒業式で大丈夫か、日に日に心配になってきた。そんな時、先生や家族に、

「大丈夫。きんちようしないで、楽しんで。」

とはげまされ、勇気が出た。そして、家で家族に歌ってもらう練習を取り入れた。すると、歌とピアノの音がだんだん合うようになってきた。私は、少しずつきんちようがほぐれ自分らしくピアノがひける

ようになってきた。そして本番当日、出番が近づけば近づくほどきんちようが高まってきた。ついに出番になると、もう手が動かなくなりそうなくらい胸のドキドキが止まらなかった。でも、いざひき出すといつも以上の力を発きすることが出来、最後まで集中して楽しんでひくことが出来た。ようやくひき終えた時、胸をなで下ろして、天にもものぼる心地になった。同時にここまで本当によくできた達成感を得ることができた。

私は、ずっと夢見て、無理だと思っていた。ピアノばんそうをかなえることが出来た。達成するまで、苦しくつらかったけど、達成した時の感動は忘れられない。この経験からこれからもいろんなことにチャレンジして、たくさん感動する思い出を作ってきた。